縁を原動力にオリジナル製品を開発

# キラリTOKYO 第133回

ー輝く企業の現場からー

## 株式会社日興エボナイト製造所

ゴム製品製造業

### 自前商品で業績の回復を目指した

天然ゴムと硫黄を混ぜ、加熱してできる「エボナイト」は、黒褐色で硬く、「黒檀（エボニー）」のような美しい艶を放つ合成ゴムだ。丈夫で化学的に安定しており、切削・研磨加工が可能。独特な質感、絶縁性・耐薬品性の高さ、音響特性の良さといった長所も兼ね備えている。

日興エボナイト製造所は、現在、国内で唯一とされるエボナイトメーカーだ。現代表取締役である遠藤智久氏の祖父・遠藤勝造氏が1952年に創業して以来、電気部品の絶縁材料、木管楽器のマウスピース、万年筆のボディなどの製造を手がけてきた。プラスチックが普及してエボナイトのシェアを奪い、多くのエボナイトメーカーが廃業した後も、高い技術力を武器に生き残っている。

同社に最大のピンチが訪れたのは2008年のこと。リーマン・ショック後の不景気により、年5000万円前後あった売り上げが、3600万円まで落ち込んだ。遠藤智久氏は危機感に突き動かされ、さまざまなセミナーや展示会などに参加して生き残りの道を探ったそうだ。

「そこで、月1回・半年間の経営講座を紹介され経営の専門家から、『自前の商品作り』を勧められたのです。下請けという立場から脱却し、当社の技術力を生かした商品で勝負する方針に切り替えました」（遠藤氏）

### 協業が生み出したオリジナル万年筆

日興エボナイト製造所では以前から、万年筆メーカーに向けた軸やキャップなどに使用されるエボナイト材料（丸棒）を作っていた。しかし遠藤氏は、これを全て自力で商品化しようと試みた。

「エボナイトの手触りはしっとりとして滑りにくく、他の素材にはない質感があります。また、当社は専業メーカーですから、さまざまな色・模様のエボナイトを製造してお客さまを楽しませることができます。

私たちがエボナイトを納めていた万年筆メーカーの中には、エボナイトの表面に漆を塗った超高級万年筆を製造しているところがあります。こちらの値段は、数万円～数十万円以上。一方、エボナイト万年筆は3～8万

円程度で提供可能で、これなら勝算があると思いました」（遠藤氏）

遠藤氏は以前から付き合いのあった万年筆職人に、軸の製造を依頼。こちらはかなり早い段階で、満足のいくものが仕上がった。一方、苦労したのがペン先だった。ペン先づくりに携わる企業・職人を必死に探したが、「これは」というところはなかなか見つからなかったという。

「当時は仕事が減り、時間だけはありました（笑）。それで、できることは何でもやろうと毎日歩き回ったのです。そうした中で知り合いになった方にドイツの仕入れ先を紹介してもらい、製品化にめどがつきました」（遠藤氏）

遠藤氏は2009年、荒川区の産業展にオリジナル万年筆を出品。そこで手応えをつかみ、ウェブショップ「笑暮屋（エボヤ）」を開設して、万年筆の本格販売を開始した。さらに、2011年には日本橋三越本店の催事にも出店し、多くのファンを獲得。万年筆の販売拡大が寄与し、カラーエボナイトの素材販路も海外に拡大。2016年度の全社売り上げは、リーマン・ショック前の1.5倍以上となる約7700万円にまで伸びた。

「オリジナル万年筆がヒットした要因は、エボナイトの良さだけではありませんでした。万年筆職人やペン先の輸入を持ちかけてくれた方、三越の催事場担当者など、さまざまな方とのご縁に恵まれたからです」（遠藤氏）

## 「随縁」を何より大切にする

ヒット商品に恵まれた原動力を、「縁」だと分析する遠藤氏。ただし、それは偶然に転がり込んだものではない。遠藤氏が足を棒のようにしてたくさんの人を訪ね、情熱を持って説得した結果だと言えるだろう。

「祖父（勝造氏）が大切にしていたのが、『随縁』という言葉です。人とのつながりは、最初はどうなるか分からない。しかし、それを誠実に守ることが未来につながるという意味でした。私がこれまで行ってきたことは、祖父の教えにかなっていたのかもしれませんね」（遠藤氏）

遠藤氏は現在、海外事業に力を注いでいる。2011年には海外オンラインマッチングサイトであるアリババ.comに登録。2014年からは、ロサンゼルスの展示会「ペン・ショー」に出展を続けている。今後は、海外でも「縁」を広げ、オリジナル万年筆の愛好家を増やしていこうと計画を練っているところだ。

①「ろくろ」を使い、万年筆を研磨していく
②マーブル模様が美しいオリジナルボールペン（左）と万年筆（右）。エボナイト独特の触感さわり心地が、書く楽しさをさらに高めてくれる
③2014年、本社の近くにショップ「笑暮屋」をオープン。万年筆やボールペン、エボナイト製ギターピックなどを販売している
（2ページの写真）遠藤智久氏がさまざまな人々と手を携えて生み出したエボナイト製の万年筆。国内外の文具好きから高い評価を得ている

### 職員から～取材を終えて～

国内唯一のエボナイト製造メーカーである当社は、「エボナイト素材を広く愛される素材に」「伝統技術であるろくろ挽きの承継」という想いを胸に公社の経営革新計画承認支援を活用し、新事業プランに着手。オリジナルのエボナイト製万年筆の事業を立ち上げました。自社の強みとなる素材を活かした自社製品開発は、見習うべき点が多い好事例と言えるでしょう。荒川区の若手経営者のリーダー的な存在でもある遠藤社長からは目が離せません。

（企画課　大場順二）

**株式会社日興エボナイト製造所**

（会社概要）
代表者：代表取締役　遠藤　智久 氏
資本金：1000万円
従業員：13名（2017年8月現在）
所在地：荒川区荒川1-38-6
TEL：03-3891-5258　FAX：03-3891-5259
URL：http://www.nikkoebonite.com/